

令和7年度 第1回五條市総合教育会議 議事録

■日時：令和7年1月27日（木） 10時から11時

■場所：五條市役所 2階 災害対策室

■出席者

平岡 清司 市長

井上 恵充 教育長

井本 誓晃 教育委員

寒川 英明 教育委員

大西 修二 教育委員

井田 栄子 教育委員

■事務局等

市長公室長 池嶋 晶

あんしん福祉部長 馬場 由美子

教育部長 安満 義尚

市長公室次長 神山 博美

教育部次長 安野 寿仁

教育総務課長 辰巳 斎彦

学校教育課長 徳本 義和

生涯学習課長 辰巳 大輔

文化財課長 前坂 尚志

子どもサポートセンター所長　古澤　祐子

教育総務課長補佐　辻本　洋一

企画政策課長補佐　上平　潤介

1 開会（議事進行 池嶋市長公室長）

2 平岡市長挨拶 要旨

教育委員の皆様並びに教育長には、日々のご尽力とご協力に深い敬意と感謝を申し上げる。

現在の五條市教育大綱は、令和3年度から令和7年度までの5年間を対象期間とするものであり、また、五條市教育振興基本計画に基づき進行管理に取り組んでいただいている。

本市は、令和6年度から給食費無償化を進めるとともに、第2子以降の保育料無償化、小中学校のトイレの洋式化を推進してきた。本年度からは新たに通学用自転車購入費補助金の導入、特別教室のエアコンの整備、照明のLED化などを推進し、子どもと教職員が安全で快適に学び、働く環境整備を進めている。

さらには、令和8年度からは公私連携幼保連携型認定こども園への移行を行い、保育・教育の連携を一層強化していく所存である。

現代はグローバル化やデジタル化の一層の進展により、ライフスタイルが多様化し、社会課題も複雑さを増している。このような時代こそ、「人づくり」「人材育成」が最も大切であると考える。

また、市民一人一人が生きがいのある充実した人生を送るために、生涯学習社会

を整えることも大切である。

子育ての環境整備と教育環境の充実は、将来を担う人材を育む根幹であり、地域社会の活力を生み出す源泉である。

それぞれの立場からのご示唆が、より実効性の高い計画を生み出す力となるため、皆様には、次期教育大綱及び教育振興基本計画の策定にあたり、様々な角度からご意見を賜りたい。

様々な観点で実効性ある議論を深め、これまで以上により良い教育の方向性を見出すことができるよう取り組んでまいるため、一層のご理解とご協力を願い申し上げる。

■議事録の署名

- ・平岡市長及び大西委員が署名を行うことで承諾。
- ・地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4の規定により、会議及び会議録は公開することで承諾。

3 協議事項

(1) 第2期五條市教育大綱の策定 《説明：辰巳教育総務課長》

資料を基に五條市教育大綱の策定の背景及び第2期五條市教育大綱（案）の内容について説明

- ・五條市の現状、五條市教育大綱の基本理念、計画期間、目指す教育、基本方針、重点施策について

【質疑・意見等】

特になし

(2) 第5期五條市教育振興基本計画の策定 『説明：辰巳教育総務課長』

資料を基に五條市教育振興基本計画の策定の経緯及び第5期五條市教育振興基本計画（案）の内容について説明

・計画の構成、五條市教育の目指す方向性、五條市教育大綱で示した5つの基本方針に基づいた重点施策、五條市教育振興基本計画ファーチャープラン（令和8年度～令和12年度）について

【質疑・意見等】

(平岡市長)

計画は平成25年から検証を重ね、令和4年度にも見直しが行われたが、具体的にどのような目標が達成され、どのような点が見直されたのか。

(辰巳教育総務課長)

例えば、私が所管している教育総務課については、ICT教育がかなり進んでいる。板書中心からパソコン等を活用した授業へ移行し、教科書だけでは伝えきれない内容を教えている。また、西吉野農業高校魅力化推進事業は全国的にも注目され、全国から生徒を募集し、同校ならではの施策を展開している。

これらのような施策を5年スパンで検証し、次の計画に反映させている。

例えば、ICT教育については今後、デジタル電子黒板の導入などを検討してお

り、これらの取組を通じて子どもたちが「五條に住んでよかった」と思えるような施策を推進していく。

(井田委員)

令和8年度からこども園が公私連携に移行するにあたり、行政がどのような立場で関与していくのか。これまで公立だった3園のうち2園が公私連携となる中で、市としての方針をどの範囲まで示すのか、また運営者の方針との線引きがどのようになるのか。

(安野教育部次長)

市の基本的な方針として、公立の認定こども園で実施している教育・保育内容を基盤としつつ、民間の特色を取り入れた新しい形の認定こども園を目指していきたい。その中で教育・保育の質の向上、保護者の選択肢の拡大、子育て支援の充実を図りたいと考えている。

公私連携の認定こども園へ移行する2園と、既存の公立認定こども園が連携することにより、引き続き子どもが安心して遊びや学びに取組むことができる環境づくりに努めたい。

(井上教育長)

子どもたちにとって、就学前の段階というのは非常に重要な時期であり、特に5歳頃までに神経系の8割が形成されるため、この時期の教育の質を高めることは不可欠である。残念ながら五條市の子どもの数は減っているが、教育の質を高めることは絶対にしなければならないと思っている。

私自身、保育所的な機能は私立が、幼稚園から小学校への接続は公立（幼稚園）がそれぞれ優れたノウハウを持っていると考えていたが、実際には公立・私立を問わず各園が独自のノウハウを保有している。これらのノウハウを共有し、お互いに協力しながら、子どもたちの育ちと学びのために進めていくことが最も重要である。

もちろん課題は多いとは思われるが、保護者からの「多様な選択肢がほしい。」「今 の先生を変えないでほしい。」といった様々な要望に関するアンケート結果などを踏まえ、市民の声に真摯に耳を傾けながら公私連携を進めるべきだと考えている。

（寒川委員）

五條市に住んでよかったという魅力ある街をつくるのも大事である。
幼少期からの学力や行動が将来につながり、一度市外の大学へ進学した子どもたち
が再び五條市に戻ってくるためには、行政が主導して市の魅力を高める必要がある。
市外の生活を経験した若者が、五條市に戻りたいと思えるような魅力がなければ、定
住は難しい。

（井上教育長）

提示された計画は教育全体の根幹に関わる多岐にわたる内容であるため、今後も委
員からの多様な意見をいただきたい。

ベースとなっているのは、現状を把握することである。まずは、現状を正確に把握
し、分析することが重要である。その上で、良い点は更に伸ばし、課題は改善してい
く必要がある。

目標を示す際には、可能な限り K P I （重要業績評価指標）のような数値目標を用いて具体的に示す方針であるが、全てのデータを掲載することはできないため、不明な点については都度質問を歓迎する。

（井田委員）

本当に様々な目標について、いろいろ考えられて作られたと思うが、計画 1 1 ページに記載されている「豊かな心の育成」について、「ウェルビーイングの向上」や「ポジティブな人間関係の構築」といった言葉が抽象的で、具体的な施策が分かりにくく感じる。

子どもたちにとって、勉強がもちろん大切であるが、心の充実が学校生活の基盤であり、現状で不登校の子どもたちもいるという点を鑑みても、「豊かな心の育成」は非常に重要であるため、施策の方針など具体的な取組内容について伺いたい。

（徳本学校教育課長）

「ウェルビーイング」とは「心身ともに満たされた良い状態」を指す教育業界で使われる用語であり、もともと 1946 年世界保健機構の憲章の前文で健康を定義する言葉として提唱され、現代の教育業界でも使われるようになってきた。その中で、文部科学省から国の教育の方向性を示した第 4 期教育振興計画の 2 つのコンセプト、持続可能な社会の作り手の育成、日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上の 1 つとして掲げられている。

具体的な施策としては、テストの数値では測れない「非認知能力」の向上を目指すため、学校現場では、各教科の学習においてグループ学習や発表の機会を増やし、子

どもの自尊感情を高めていく。また、特別活動などでソーシャルスキルトレーニングを実施し、コミュニケーションスキルを育成していく。

(井本委員)

計画を見ると、全体的に P D C A など横文字が多く使われている。

P D C A という言葉は、昔の戦争時代に部隊を構成する際に最初にできた言葉であり、それを経営学で使われ始めたことがきっかけで、現代の様々な場面でも使っているという経緯があると思われる。

P D C A サイクルは、計画性を重視する一方で、実行までに時間がかかり、状況の変化に対応しにくいというデメリットがある。

近年では、現場主義で変化に迅速に対応する「O O D A（ウーダ）ループ」のような手法も存在し、P D C A とO O D A の両方の長所を取り入れた柔軟なアプローチが求められている。

文部科学省の方針を踏まえつつも、五條市の学校づくりの実情に合った、じっくり考えるべきことと迅速に対応すべきことを両立させる柔軟な計画運用が必要ではないかと考える。

(大西委員)

教育振興基本計画を見たときに、具体性というか、実際に現場でいつからどのようなことをするのかが分かりにくいというもどかしさを感じる。文章で表現することが難しいことは承知しているが、5年計画を学校現場で実践するためには、基本計画の

下にあるような、各部署でもっと具体化された指針が必要である。

例えば、学校であれば3学期に分かれており、学期ごとに取り組む内容を分けるなど多岐にわたるため、学校として特定のテーマに絞って取り組むといった、より明確な指針が求められているのではないかと思う。

それから、別件であるが、五條市に限らず日本全国で課題となっている人口減少と少子化について、子どもがいないと学校の活力が失われるということを特に最近感じている。

若者が高校・大学卒業後に五條市から流出してしまう現状があり、行政も人口減少対策を考えてくれているとは思うが、現実には効果を上げていないことへのもどかしさを感じている。

(平岡市長)

人口減少はなかなか止まらないところではあるが、私としては人口減少対策として実行可能な施策から着手してきた。

まずは、県内12市初の給食費無償化、そして職員提案で実現した新生児へおむつ無料配布（1年間）を実施した。この施策は、市の職員が直接家庭を訪問し、育児相談にも乗る機会となる点で良い取組だと評価している。

さらに、中学校への通学にあたってスクールバスを求める声が多かったものの、実際に生徒に聞いてみると、自転車通学を望む声が多かったことを受けて、自転車購入費を上限2万円で補助している。そして、若者の定住を促進するため、五條市在住・在勤者には年間18万円、五條市在住・市外勤務者には年間12万円を補助する奨学

金返還支援制度を導入した。

今後の子ども子育て支援施策としては、こども園の公私連携の取組と関連して保育料の完全無償化、18歳までの医療費の完全無償化を目指したいと考えている。

ただ、これらの施策を講じても人口増加には至っていない現状はあるものの、子育て世代を応援し、質の高い教育を提供できる五條市でありたいと思っている。

そのような中でしっかりと若い世代を応援し、先ほど寒川委員がおっしゃったような魅力ある五條市になってほしいと思っている。

もう一点は、令和11年の春に竣工を目指す五條市中心市街地活性化について、現在、旧バスセンターを解体し、その跡地を市が買い受け、図書館とホールの建設を予定しており、ホールの集客目標として、職員からは60万人という目標が示されている。高校生や市民を対象としたワークショップを開催し、意見を聴取しながら進めおり、五條市の活性化のために非常に良いことだと思っている。

関連する街の整備として、県に対して、国道24号からJR五条駅へ向かう道、JR大和二見駅へ向かう道の拡幅を要望したいと考えている。

とにかく市として市民の意見を聴取し、実行可能なことから迅速に着手することで魅力ある街づくりと人口増加を目指してまいりたい。

(寒川委員)

教育現場においては、長期的な計画改善だけでなく、短期的な視点でのP D C Aサイクルの運用が重要である。

特に中学校では生徒が3年で卒業するため、長期的なP D C Aサイクルは適していない。計画（P l a n）だけでなく、評価（C h e c k）を迅速に行い、短期間で改善（A c t i o n）につなげていく必要がある。

(井本委員)

先ほどの平岡市長の話を聞いて、本当にハード面もソフト面もいろいろなことを考えていただき、五條市がだんだんまた変わってくるんだという思いがした。

私が以前から思っているのは、若者が市内でスポーツや遊びなどで楽しく集まる場所が不足しているのではないかということ。

「あそこに行けば何か面白いことがある」と思えるような場所があれば、若者の関心を市内に引きつけ、定着につながるのではないかと思っている。

平岡市長が先に述べられた、図書館やホールなど若者が集まる場を作っていただけ るというのは、本当にありがたい。また、今後も若者の視点を考慮した計画を立ててほしい。

【今後のスケジュールについて】

(辰巳教育総務課長)

今後のスケジュールについては、本日の総合教育会議で頂いた意見を踏まえて、第2期五條市教育大綱及び第5期五條市教育振興基本計画の内容を12月上旬までに修正する。

同時に、教育委員会事務局の方で、12月中旬から12月下旬にかけて市民の方か

らのパブリックコメントを取るとともに、現場の市内の学校の意見も頂く。それらの意見を教育委員会事務局の各課の方で修正して、大綱及び振興計画に盛り込んでいく。

その上で、令和8年1月29日に、令和7年度第2回五條市総合教育会議を開催し、第2期五條市教育大綱及び第5期五條市教育振興基本計画を、皆様に説明した後、最終確認の上、最終決定する予定としている。

また、最終決定した第2期五條市教育大綱及び第5期五條市教育振興基本計画については、令和8年3月議会の総務文教委員会にて報告する。

4 教育長挨拶 要旨

本日の会議において、第2期五條市教育大綱、そして第5期五條市教育振興基本計画の策定に向けて貴重な意見を頂いたこと、感謝申し上げる。

教育大綱及び教育振興基本計画は、五條市の今後の教育の根幹をなす重要なものであり、子どもたちの学びや市民生活に直結するものであると認識しているため、今後も様々な場面で意見を伺いたい。

ふるさとを愛して、自ら考えて行動できる、そんな心豊かな人づくりを目指したいと思っている。

市全体が一丸となって子育て支援や若者の定着に取り組むことが必要不可欠であり、教育分野においても、五條市の魅力ある教育を目指して次へ進んでまいりたい。

(終了)